

授業科目 (履修区分)	食品安全とリスク管理論 (必修科目)		担当教員	田上 隆多 田上 隆一 白川 洋輔	
対象年次	研究科2年		期 別	令和9年度 後期	
単 位 数	2 単位	講義： 2 単位	時 間 数	30時間	
		実習： 単位			
授業の目的 及び概要	農業生産や農産物の取扱いにおける食品安全とリスク管理の基本を学ぶ。食品安全に関する危害要因の考え方を理解するとともに、コーデクス国際食品規格「食品衛生の一般原則」(2020年改訂版)に基づく考え方を踏まえ、一般衛生管理及びHACCPシステムの基礎を扱う。講義と演習を通じて、現場の課題を整理し、改善の方向性を考える力を養う。				
授業の到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 食品安全、リスク、一般衛生管理、HACCPの基本を説明できる。</li> <li>・ 農業や農産物の取扱いにおける主な危害要因を挙げ、リスク管理の視点で整理できる。</li> <li>・ 一般衛生管理やHACCPの考え方をを用いて、簡易な改善提案ができる。</li> <li>・ 学んだ内容をレポートや発表で分かりやすくまとめることができる。</li> </ul>				
授業の方法	講義を基本としつつ、事例検討、現場・施設の観察、グループワーク、PCを用いた資料整理、小発表等を組み合わせて実施する。				
授業内容	主な講義内容			講義	実習
	1	ガイダンス、食品安全とリスク管理の全体像	2		
	2	農業における危害要因の基礎(生物的・化学的・物理的危険)	2		
	3	一般衛生管理の基礎(施設・設備、清掃、使用水、個人衛生等)	2		
	4	食品安全に関する制度と衛生管理の考え方	2		
	5	演習：現場・施設における衛生上の課題の抽出	2		
	6	演習：抽出した課題の整理、改善提案、手順書等への反映	2		
	7	中間テスト及び解説			
	8	栽培から出荷までの工程図の作成と各工程における食品汚染リスクの整理	2		
	9	HACCPの基本的な考え方と演習の導入	2		
	10	HACCP演習(1)：製品説明及び工程確認	2		
	11	HACCP演習(2)：ハザード分析(前半)	2		
	12	HACCP演習(3)：ハザード分析(後半)とCCPの設置	2		
	13	HACCP演習(4)：管理基準(CL)及びモニタリ	2		

	<p>ング方法の設定</p> <p>14 HACCP演習(5)：改善措置、記録、検証の設定</p> <p>15 総括及び海外事例による食品安全管理の考察</p> <p>※2・3限連続授業あり（日程は別途連絡）</p>	2	
テキスト	<p>適宜、資料を配布する。</p> <p>「食品安全検定テキスト初級第3版」 監修：一色賢司／編集：一般社団法人食品安全検定協会／2023年11月1日 第3版発行</p> <p>「HACCP 管理者認定テキスト」 編集：一般社団法人日本食品保蔵科学会 HACCP 管理者認定委員会／2021年4月30日 改訂版発行</p>		
成績評価の方法	<p>平常点（授業への参加状況、グループワーク及び発表への取り組み状況）、課題（自習課題、演習課題）、中間テスト、期末レポートにより総合的に評価する。評価配分は以下の通りとする。</p> <p>○平常点 20%</p> <p>○課題 20%</p> <p>○中間テスト 25%</p> <p>○期末レポート 35%</p>		
備考			

授業科目 (履修区分)	フードシステム論 (必須科目)		担当教員	山崎 政行	
対象年次	研究科1年		期 別	令和8年度 前期	
単 位 数	2単位	講義： 2単位	時 間 数	30時間	
		実習： 単位			
授業の目的 及び概要	<p>フードシステムとは、食料の生産から消費に至る全課程のことである。本授業は、主要な食料の生産と流通の仕組み、変貌するフードシステムの実態について理解することを目的とする。研究生が次のステージでフードシステムについて自ら考える能力を習得する。</p>				
授業の到達 目標	<p>各種の農産物の生産と流通の実態を理解し、フードシステムを担う各段階の実態を理解して、フードシステムの創造について考えることができる。</p>				
授業の方法	<p>全15回のうち13回は対面授業(グループワークを含む)、1回は自主学習、1回は試験とする。</p>				
授業内容	主な講義内容			講義	実習
	1	オリエンテーション、フードシステムの過程を考える		2	
	2	野菜・果実の生産と流通		2	
	3	食肉・鶏卵の生産と流通		2	
	4	米・麦の生産と流通		2	
	5	生乳・乳製品の生産と流通		2	
	6	フードシステムに関するグループワーク		2	
	7	グループワークの発表とディスカッション		2	
	8	食品の輸出入の状況		2	
	9	生産者、消費者の視点に基づく自主学習の成果		2	
	10	フードシステムを担う(1) 生産者と生産者組織		2	
	11	フードシステムを担う(2) 流通業者		2	
	12	フードシステムを担う(3) 食品製造業者		2	
	13	フードシステムを担う(4) 小売店と飲食業		2	
	14	試験		2	
	15	試験内容解説とフードシステムの変化・展望について		2	
テキスト	なし				
成績評価 の方法	<p>期末試験・レポートを実施する。評価配分は以下の通りとする。 ○期末試験：50%、○レポート10%、○授業への取組・グループワーク40%</p>				
備 考	<p>参考図書「食料経済第5版」高橋正郎監修(オーム社/2016年)。「フードシステムの経済学第6版」時子山ひろみ他著(医歯薬出版/2019年)</p>				

授業科目 (履修区分)	法人経営論 (必修科目)		担当教員	平野 良樹
対象年次	研究科2年		期 別	令和9年度前期
単位数	2単位	講義：2単位	時間数	30時間
		実習： 単位		
授業の目的 及び概要	会社法の基礎から設立・運営の実務フローまでを体系的に学び、法的手続きへの理解を深めることで、健全かつ持続可能な法人経営を実現するための基礎能力を習得することを目的とする。			
授業の到達 目標	会社法の基礎から設立・運営の実務フローまでを体系的に理解し、健全かつ持続可能な法人経営を実践するための基礎的な判断能力を身に付ける。			
授業の方法	板書による解説を中心に、適宜配布資料等を使用する。			
授業内容				講義
				実習
	1 法人の種類と会社法の成り立ち		2	
	2 持分会社・合同会社と株式会社の比較		2	
	3 会社の設立と定款の記載事項		2	
	4 資本・準備金のルール		2	
	5 増資、減資の仕組み		2	
	6 会社の機関設計のポイント		2	
	7 株主総会、コンプライアンス		2	
	8 中間レポート		2	
	9 取締役、代表取締役の機能と仕組み		2	
	10 監査役、会計監査人、会計参与の責任と役割		2	
	11 会社の会計 計算書類、決算、資金調達の方法		2	
	12 株主と株式会社の関係		2	
	13 株式公開をすることのメリット・デメリット		2	
	14 M&Aに必要な事前調査		2	
	15 試験		2	
テキスト				
成績評価 の方法	レポート・期末試験を実施する。評価配分は以下の通りとする。 ○期末試験:50% ○授業中に実施するレポート:20% ○授業への参加:30%			
備 考	参考図書「ここだけ押さえる！会社法の基本第2版」(ナツメ社/2021年) 「Q&A 農業法人化マニュアル改訂第6版」(全国農業会議所/2023年)			

授業科目 (履修区分)	起業論 (必修科目)		担当教員	澤田 博光	
対象年次	研究科2年		期 別	令和9年度前期	
単 位 数	2 単位	講義： 2 単位	時 間 数	30 時間	
		実習： 単位			
授業の目的 及び概要	本授業では、農業経営の観点から、新たに事業を始めようとする起業家に必要な意志の強さや粘り強さなどの資質について学び、事業を起業するまでの一連のプロセスを理解し、事業に関係する資金、組織の構成員や人脈など起業する上で重要な要素を学ぶ。				
授業の到達 目標	本授業では、経営学の起業に関する専門知識を身につけることを目標とする。達成目標は、起業を成功に導く要素を学び、その要素についての演習を行うことで、ひとり一人が起業家となるための素養を身につけることで社会での実践の場で活用できるようになる。				
授業の方法	講義は、対面の授業を中心とする。授業では、課題レポートに提出による自主学習を取り入れる。 ※1：第10回以降は、授業の後半に学生による座談会（発表と質疑応答）の時間を設営する。 ※2：授業終了後に当日の授業の振り返りとして、講義ノートの提出を求める。				
授業内容	主な講義内容			講義	実習
	1	ガイダンス（授業内容の説明、教員自己紹介）	2		
	2	起業活動とは何か	2		
	3	起業活動のフレームワーク	2		
	4	事業機会の発生と認識	2		
	5	経営資源と事業機会	2		
	6	創業時の資金調達	2		
	7	創業時のパートナーの選び方 ／人材確保・草の根エンジェル	2		
	8	座談会向けプレゼン資料の作成	2		
	9	供給システムのしくみと供給システムの構築	2		
	10	起業のための事業収支計画（演習）	2		
	11	起業活動のダイナミズムと起業家の資質	2		
	12	Society5.0 と農業DX	2		
	13	起業のための要件（ビジネス要件定義）	2		
	14	アグリカルチャと起業	2		
	15	まとめ			
テキスト	指定なし 事前に配布資料を Google Classroom に掲載する。 参考文献は、必要に応じて授業中に指示する。				
成績評価 の方法	講義ノートの提出（40%）＋座談会での発表及び参加（60%）				
備 考					

授業科目 (履修区分)	販売実践講座 (必修科目)		担当教員	屋久 大介
対象年次	研究科2年		期 別	令和9年度 前期
単 位 数	2 単位	講義： 2 単位	時 間 数	30 時間
		実習： 単位		
授業の目的 及び概要	生産現場が抱える問題点や販路拡大の工夫を学ぶことにより、農業経営の発展に必要な販売に関する実践的な知識と柔軟な思考力を培う。			
授業の到達 目標	<p>実際の生産者として、また非農家からの新規就農者としての販路の確保や販売の促進について生の声を伝える。現状抱えている問題点や販路拡大の工夫を教えるだけでなく、学生主体に議論を活発に行い、より実践的な販売に対する思考や想定する力を培う。</p> <p>海外派遣実習の経験から得た海外での農業生産、販売知識を伝え、目まぐるしく変化する販売市場に対応できる柔軟かつグローバルな思考を培う。</p>			
授業の方法	座学、レポート、グループディスカッション等			
授業内容				講義
				実習
	1 我が家の農業経営、販売実績		2	
	2 近隣農家の販売スタイル		2	
	3 欧米の農業と販売		2	
	4 顧客の購買心理		2	
	5 グループディスカッション		2	
	6 直売所での価格設定、販売戦略		2	
	7 中間レポート		2	
	8 小売店出荷と市場出荷		2	
	9 有名農業法人の販売戦略 事例1		2	
	10 有名農業法人の販売戦略 事例2		2	
	11 付加価値について		2	
	12 輸出と輸入		2	
	13 販売市場のこれから		2	
	14 後期試験（販売戦略プレゼンテーション）		2	
	15 講評、グループディスカッション		2	
テキスト	講師配布テキスト			
成績評価 の方法	中間レポート（40%）、最終試験（40%）、授業参加態度（20%）から総合的に評価する。			
備 考	授業の進行、学生からの要望で適宜授業内容を若干変更する			

授業科目 (履修区分)	農業関係法 (必修科目)		担当教員	大島 大	
対象年次	研究科1年		期 別	令和8年度 前期	
単位数	2単位	講義： 2単位	時間数	30時間	
		実習： 単位			
授業の目的 及び概要	農業関係の法律や農業政策について、その歴史的背景や変遷を踏まえ、体系的に整理することで現在の法制度の理解を深め、これにより農業経営の発展や法人に必要な知識を習得する。				
授業の到達 目標	農業経営上、必要な法律の概要を知ること、将来具体的な問題での判断（法の存在や相談先など）が可能になるようにする。				
授業の方法	座学				
授業内容	主な講義内容			講義	実習
	1 地租改正と農地改革			2	
	2 農地法（1）農地所有適格法人について			2	
	3 農業基本法			2	
	4 農地法（2）3条、賃借権保護、小作料統制			2	
	5 農振法（都市計画法・生産緑地法・農地法4条）			2	
	6 農地の流動化（1）自作農主義・耕作者主義			2	
	7 自主学習（レポート）			2	
	8 農地の流動化（2）借地による流動化の促進			2	
	9 農業経営基盤強化促進法			2	
	10 食料・農業・農村基本法			2	
	11 米政策（1）食糧法と食糧法			2	
	12 米政策（2）直接支払制度など			2	
	13 税法（1）相続税や固定資産税における農地の評価			2	
	14 税法（2）所得税・法人税・消費税			2	
	15 試験			2	
テキスト	使用しません。毎授業時にレジメを配布します。				
成績評価 の方法	レポート（概ね20%）評価試験2回（概ね80%）により評価する。				
備 考					

授業科目 (履修区分)	アグリビジネス論 (必須科目)		担当教員	山崎 政行	
対象年次	研究科 1 年		期 別	令和 8 年度 後期	
単 位 数	2 単位	講義： 2 単位	時 間 数	3 0 時間	
		実習： 単位			
授業の目的 及び概要	<p>アグリビジネスは、農業及びそれを取り巻く周辺ビジネスのことを指すものであり、その範囲は広い。</p> <p>本授業は、農業経営体を中心に経営体を支援する組織との関係を含めた実態を理解することを目的とする。事例に関する授業を通して、研究生が将来関与するアグリビジネスについて、自ら考えうる能力を習得する。</p>				
授業の到達 目標	<p>農業経営体をめぐるアグリビジネスの実態を、事例を通して理解して、自らアグリビジネスの創造について考えることができる。</p>				
授業の方法	全 15 回のうち 13 回は対面授業、1 回は自主学习、1 回は試験とする。				
授業内容	主な講義内容			講義	実習
	1	オリエンテーション、アグリビジネスの目指すもの	2		
	2	事例Ⅰ－第三者継承による就農の実態[水稲]	2		
	3	事例Ⅰに関する考察と議論	2		
	4	事例Ⅱ－6次産業化とアグリビジネス[水稲+酪農]	2		
	5	事例Ⅱに関する考察と議論	2		
	6	事例Ⅲ－地域の酪農基盤の維持を目指す法人[酪農]	2		
	7	事例Ⅲに関する考察と議論	2		
	8	自らの経験から考えるアグリビジネス（自主学习）	2		
	9	アグリビジネスの「無形」の拡大と自主学习の成果	2		
	10	事例Ⅳ－働きやすい環境づくりに取り組む法人[野菜]	2		
	11	事例Ⅳに関する考察と議論	2		
	12	事例Ⅴ－専門農協を中心としたビジネスの展開[果樹]	2		
	13	事例Ⅴに関する考察と議論	2		
	14	試験	2		
	15	試験内容の解説とアグリビジネスの展望について	2		
テキスト	なし				
成績評価 の方法	<p>期末試験・レポートを実施する。評価配分は以下の通りとする。</p> <p>○期末試験：50%、○レポート20%、○授業への取組、発表30%</p>				
備 考	<p>第1回目の授業において「アグリビジネス進化論」（プレジデント社/2017年）を引用する。授業において、その都度各種統計や参考図書を紹介する。</p>				

授業科目 (履修区分)	キャリア形成講座 (税務基礎 必修科目)		担当教員	岡見和義
対象年次	研究科1年		期 別	令和8年度 前期
単位数	2単位	講義： 2単位	時間数	30時間
		実習： 単位		
授業の目的 及び概要	農業経営に必要な税務に関する知識・技術を習得する。			
授業の到達 目標	国民の三大義務とされる納税義務でありながら、義務教育の課程であまり深く教えられない税について、確定申告や年末調整といった割と身近な題材を取り上げ、これらの具体的な税務書類を実際に手にし、その扱い方や必要性について学んでもらう。			
授業の方法	講義型			
授業内容	主な講義内容			講義
				実習
	1	就業者の約9割を占める給与所得について	2	
	2	給与所得（源泉徴収の仕組み、サラリーマンの確定申告）	2	
	3	給与所得（源泉徴収税額、給与所得控除額、年税額の計算）	2	
	4	確定申告（10種類の所得その1）	2	
	5	確定申告（10種類の所得その2）	2	
	6	帳簿の記帳の仕方（白色）	2	
	7	帳簿の記帳の仕方（青色）	2	
	8	帳簿の記帳の仕方（簡易帳簿）	2	
	9	帳簿の記帳の仕方（固定資産台帳）	2	
	10	帳簿の記帳の実践	2	
	11	消費税の仕組み（負担者と納税者）	2	
	12	消費税の仕組み（一般課税と簡易課税制度）	2	
	13	消費税の仕組み（区分記載請求書、日本版インボイス制度）	2	
	14	消費税の仕組み（税抜と税込経理処理の違い、申告納付）	2	
	15	期末評価	2	
テキスト	適宜税務署又は国税庁発行のプリントや冊子を準備する			
成績評価 の方法	講義の受け方や試験結果等を総合的に勘案			
備 考				

授業科目 (履修区分)	経営基本管理論 (必修科目)		担当教員	山根 幹雄
対象年次	研究科 1 年		期 別	令和 8 年度 後期
単 位 数	2 単位	講義： 2 単位	時 間 数	3 0 時間
		実習： 単位		
授業の目的 及び概要	経営者として必要な経営管理（マネジメント）能力を養成する。農業経営の発展や法人に必要な基礎知識・経営技術を習得する。			
授業の到達 目標	企業経営に関係をもつ基礎知識をばらばらに習得するのではなく、相互に関連を保たせながら、体系的に学習し、整理し、理解する。よって千葉農大商店模擬会社の経営に活かし、卒業後の農業経営に活かす。			
授業の方法	経営の基本知識や経営技術を学習する演習を基本とする。演習時に理解の及ばない、習得度の低い経営知識・経営技術を座学によって、反省、修正し、再度演習によって自己に刻み込む。			
授業内容	主な講義内容			講義
	<p>経営基本管理論を通じて、次の内容を学習する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 経営・経営者の役割と使命とは何か。</li> <li>2 生産管理（生産性など）の機能とは何か。</li> <li>3 販売管理（マーケティングなど）の機能とは何か。</li> <li>4 労務管理（労働生産性など）機能とは何か。</li> <li>5 財務管理（簿記など）の機能とは何か。</li> <li>6 SWOT 分析、経営戦略、経営計画と標的顧客の選択。</li> <li>7 マーケティング戦略と生産戦略の関連性。</li> <li>8 収支計算、決算、株主総会、法人税申告。</li> </ol> <p>以上の項目で、基礎的な経営管理（マネジメント）を学習する。</p>			<p>4</p> <p>4</p> <p>4</p> <p>4</p> <p>4</p> <p>4</p> <p>4</p> <p>2</p>
テキスト	講師が作成し、配布する。			
成績評価 の方法	講師が、学生の経営管理（マネジメント）能力の習熟度、経営者としての内発的動機付けを観察し、総合的に評価する。			
備 考	授業は、学問横断的な学び、PDCA による継続改善、多様な資源を活用する。			

授業科目 (履修区分)	農業課題解決講座 (必修科目)		担当教員	外部講師
対象年次	研究科2年		期 別	令和9年度 後期
単 位 数	3単位	講義： 3単位	時 間 数	45時間
		実習： 単位		
授業の目的 及び概要	優れた農業経営者や指導者となるために必要な資質を講師と討議する 中で身に着ける			
授業の到達 目標	農業現場や農業経営、地域社会の課題について学び、課題解決に向け意 見交換することで、農業経営者や指導者に必要な思考力、判断力を身につ ける。			
授業の方法	講義、グループワーク、発表を1セットとし、5課題について検討する。			
授業内容	主な講義内容			講義
	詳細については未定 課題事例案 1 新たな販路開拓に向けた輸出促進 2 環境に配慮した農林水産業の推進 3 農山漁村の多面的機能の維持 4 食の安全確保と消費者の信頼確保 5 本県農業をけん引する経営体の育成 等			実習
テキスト	未定			
成績評価 の方法	未定			
備 考				

## (イ) 選択科目

授業科目 (履修区分)	有機農業概論 (選択科目)		担当教員	澤田 博光	
対象年次	研究科2年		期 別	令和9年度前期	
単位数	2単位	講義： 2単位	時間数	30時間	
		実習： 単位			
授業の目的 及び概要	本授業では、有機農業推進法（H18年制定）に基づく持続可能な農業を行うための「循環型農業」の目標である「1. 食と人々の融和」、「2. 有機農業と科学技術の融和」生産者と生活者をつなげる「3. 人と人の融和」を実現するための考え方や有機農業に関する生産のしくみや科学技術要素について学びます。				
授業の到達 目標	達成目標は、有機農業の現状課題と解決に向けた取り組みについて学習することで、持続可能な循環型農業を可能とする有機生産システムのしくみと科学技術の知識を身につけ、社会での実践の場で活用できるようになることです。				
授業の方法	講義は、対面の授業を中心とする。授業では、課題レポートに提出による自主学習を取り入れる。 ※1：第10回以降は、授業の後半に学生によるプレゼンテーションの時間を設営する。 ※2：授業終了後に当日の授業の振り返りとして、講義ノートの提出を求める。				
授業内容	主な講義内容			講義	実習
	1	ガイダンス（授業内容の説明、教員自己紹介）	2		
	2	有機農業の定義／有機農業を取り巻く状況	2		
	3	有機農業のこれまでの歴史	2		
	4	有機農業の科学的研究	2		
	5	循環型農業を促すヒント	2		
	6	有機農産物の品質（ほんとうに美味しいか）	2		
	7	農産物の新しい見方	2		
	★	プレゼンテーション資料の作成（自主学習）	2		
	8	循環している農業（食育と循環教育）	2		
	9	「有機農業の科学と技術」に学ぶ	2		
	10	有機農業の実践農家から学ぶ	2		
	11	果菜類、葉菜類への有機液肥の利用	2		
	12	低炭素社会の実現に向けた有機農業	2		
	13	持続可能な社会に適した有機農業/まとめ	2		
	14	学期末試験	2		
テキスト	中野明正著 インテグレート有機農業論 誠文堂新光社 ※各自で電子書籍を購入のこと（中古の市販本あり） ※参考書は、必要に応じて授業の中で指示する。				
成績評価 の方法	講義ノートの提出（30%）＋プレゼンテーション（30%）＋期末試験（40%）				
備 考					

授業科目 (履修区分)	営農講座 (選択科目)		担当教員	平野 良樹	
対象年次	研究科 1 年		期 別	令和 8 年度前期	
単 位 数	2 単位	講義： 2 単位	時 間 数	3 0 時間	
		実習： 単位			
授業の目的 及び概要	農地法や農地所有適格法人の設立・運営ルールを体系的に講じる。契約実務など、健全な農業経営を支える実践力を養う。				
授業の到達 目標	あらゆる規模の農業経営に関する能力を養うことを目標とする。				
授業の方法	板書による解説を中心に、適宜配布資料等を使用する。				
授業内容				講義	実習
	1 農業経営の特性から事業プランをどのように考えるか			2	
	2 農地法の基本			2	
	3 農地法の許可要件			2	
	4 契約書の基本と有効要件			2	
	5 契約書の構成と注意点（農地売買契約書）			2	
	6 農業法人・農地所有適格法人			2	
	7 農事組合法人 株式会社との比較			2	
	8 中間レポート			2	
	9 法人の組織形態に関する比較			2	
	10 法人の事業要件、役員要件			2	
	11 農業参入方法についてそれぞれのメリットやデメリット			2	
	12 農業参入方法の全体像と注意点			2	
	13 外国人と働く農業			2	
	14 農業における労務管理			2	
	15 試験			2	
テキスト					
成績評価 の方法	レポート・期末試験を実施する。評価配分は以下の通りとする。 ○期末試験:50% ○授業中に実施するレポート:20% ○授業への参加:30%				
備 考	参考図書「3 訂版新規農業参入の手続と農地所有適格法人の設立・運営」 (日本法令/2020 年) 「改訂第 6 版 新・農地の法律早わかり！」(全国農業会議所/2023 年)				



授業科目 (履修区分)	地域資源利用論 (選択科目)		担当教員	橋本 詳平	
対象年次	研究科1年		期 別	令和8年度 後期	
単位数	2単位	講義： 2単位	時間数	30時間	
		実習： 単位			
授業の目的 及び概要	中山間地域にある資源（生物資源・バイオマス・文化・景観等）を利活用した農林業の在り方を各地の事例を通して学び、自らの事業経営に必要な知識と視点を養う。				
授業の到達 目標	授業で紹介する各地の取り組み事例を通して、中山間地域における様々な「資源」を創出できる基礎を身に付ける。				
授業の方法	講義形式（授業内レポート作成含む）				
授業内容				講義	実習
	1	中山間地域の現状と課題		2	
	2	生物資源（バイオマス）について（1）		2	
	3	地域資源を活用した取り組み 事例紹介（1）		2	
	4	事例紹介（2）		2	
	5	事例紹介（3）		2	
	6	事例紹介（4）		2	
	7	事例紹介（5）		2	
	8	事例紹介（6）		2	
	9	授業内レポート作成		2	
	10	バイオマスについて（2）堆肥化 エコフィード		2	
	11	バイオマスについて（3）バイオ燃料 バイオガス		2	
	12	バイオマスについて（4）バイオプラスチック 再生 可能エネルギー		2	
	13	バイオマスについて（5）木質バイオマス		2	
	14	期末試験		2	
	15	期末試験返却及び授業内容のまとめ		2	
テキスト	なし				
成績評価 の方法	レポート、期末試験を実施する。評価配分は以下の通りとする。 ○期末試験：40% ○授業中に実施する複数回のレポート作成：40% ○出席状況・取り組み態度：20%				
備 考					

授業科目 (履修区分)	園芸施設論 (選択科目)		担当教員	中臺 敬子
対象年次	研究科1年		期 別	令和8年度 前期
単位数	単位	講義： 2単位	時間数	30時間
		実習： 単位		
授業の目的 及び概要	施設園芸をとりまく現状や課題、施設園芸に必要な植物生理、最新技術を活用した経営発展について学ぶことで施設園芸に関わる専門的な知識の習得を図る。			
授業の到達 目標	施設園芸に特有な栽培管理、環境管理および作業管理を理解する。さらに、施設園芸の現状と課題、最新技術の動向を理解する。			
授業の方法	講義			
授業内容				講義
				実習
	1	施設園芸をめぐる情勢	2	
	2	施設内環境の特徴、園芸施設関連用語	2	
	3	わが国における施設園芸の現況	2	
	4	養液栽培の種類と特徴	2	
	5	園芸施設における石油エネルギー及びプラスチック使用量 暖房燃料、農業用資材の原料を学びその使用に伴う環境問題	2	
	6	施設園芸技術の新展開及びスマート農業	2	
	7	園芸植物の生理・生態特性(1)呼吸 呼吸のはたらき、環境への影響	2	
	8	中間レポート	2	
	9	園芸植物の生理・生態特性(2)光合成 光合成のはたらき、光合成速度に及ぼす環境要素等	2	
	10	園芸植物の生理・生態特性(3)蒸散 蒸散のはたらき、蒸散に影響を及ぼす環境要素	2	
	11	園芸植物の生理・生態特性(4)成長 栄養成長、生殖成長、転流、養分欠乏症と生理障害等	2	
	12	園芸植物の生理・生態特性(5)光/温度形態形成 発芽や花成のしくみ	2	
	13	園芸施設の物理環境調節(1)暖房・保温被覆資材	2	
	14	園芸施設の物理環境調節(2)換気・冷房	2	
	15	期末考査期末試験を実施し学習習熟度を測る。	2	
テキスト	授業時に適宜プリントを配布する			
成績評価 の方法	レポート・期末試験を実施する。評価配分は以下のとおりとする。 ・期末考査 50% ・授業への参加や取組 30% ・授業中に実施するレポート 20%			
備 考	参考図書「植物工場ビジネス」(日本経済新聞出版社/2010) 参考図書「施設園芸学-植物環境工学入門-」(朝倉書店/2022)			

授業科目 (履修区分)	家畜解剖学 (選択科目)		担当教員	岩淵 功	
対象年次	研究科2年		期 別	令和8年度 後期	
単位数	2単位	講義： 2単位	時間数	30時間	
		実習： 単位			
授業の目的 及び概要	家畜の構造の仕組み・生理機能等、実践的かつ専門的な知識を習得する。				
授業の到達 目標	家畜体の構造の仕組みを知ることによって、その生理機能を立体的に理解する。 そして家畜体の利用方法に役立てる。				
授業の方法	講義				
授業内容				講義	実習
	1 家畜の進化と特徴・人との体型比較			2	
	2 骨格：各部（頭蓋）と連結・形態			2	
	3 骨格：各部（胴骨）と連結・形態			2	
	4 骨格：各部（肢骨、歯）と連結・形態			2	
	5 筋肉の役割、構造・分類			2	
	6 消化器：口腔、咽頭、胃			2	
	7 消化器：腸、肝臓、脾臓			2	
	8 食肉の特性と枝肉の格付・と場			2	
	9 泌尿器：腎臓、尿路、生殖器			2	
	10 循環路：心臓、血管、リンパ管			2	
	11 呼吸器：肺、気管			2	
	12 神経系、感覚器：脳、神経、眼球、耳			2	
	13 内分泌系、外皮：ホルモン、皮膚・角質器			2	
	14 まとめ			2	
	15 試験			2	
テキスト	家畜比較解剖図説（養賢堂） 図説基礎動物生理学（アドスリー）				
成績評価 の方法	期末試験により評価する。				
備 考					

授業科目 (履修区分)	家畜衛生学 (選択科目)		担当教員	岩淵 功	
対象年次	研究科2年		期 別	令和8年度 後期	
単 位 数	2 単位	講義： 2 単位	時 間 数	30 時間	
		実習： 単位			
授業の目的 及び概要	家畜衛生学の基本的な知識を学ぶことで家畜生産にかかわる実践的かつ専門的な知識を習得する。				
授業の到達 目標	家畜衛生学の基礎的な知識を習得することにより、家畜の疾病予防と健康の増進を図り、生産性の向上に寄与する技術を学ぶ。 また、最近問題となっている、家畜の生産性を害する重要な疾病について理解を深める。				
授業の方法	講義				
授業内容				講義	実習
	1 畜産の現状と家畜衛生			2	
	2 家畜衛生関連機関と関連法規			2	
	3 家畜伝染性疾患の国内防疫			2	
	4 家畜伝染性疾患の国際防疫・人畜共通感染症			2	
	5 家畜飼養環境の消毒			2	
	6 家畜の生産環境と生産衛生			2	
	7 家畜排泄物と環境保全型農業			2	
	8 牛の衛生管理			2	
	9 緬山羊の衛生管理			2	
	10 豚の衛生管理			2	
	11 鶏の衛生管理			2	
	12 その他の動物の衛生管理			2	
	13 免疫と動物用ワクチン			2	
	14 家畜の中毒と飼料安全			2	
	15 定期試験			2	
テキスト	コアカリ 動物衛生学 文永堂出版株式会社 獣医衛生学教育研修協議会 編				
成績評価 の方法	定期試験、提出レポート、出欠席状況、講義聴講態度で評価する。				
備 考					

授業科目 (履修区分)	中小家畜論 (選択科目)		担当教員	吉田 早希	
対象年次	研究科 1 年		期 別	前期	
単 位 数	2 単位	講義： 2 単位	時 間 数	30 時間	
		実習： 単位			
授業の目的 及び概要	中小家畜経営における総合的な技術及び流通構造について理解するとともに、これら畜産経営を取り巻く情勢を解説して、その理解を深める。				
授業の到達 目標	中小家畜の品種ごとの特徴や生理、飼養・繁殖・衛生・肥育管理技術等を理解する。				
授業の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業内容に沿った講義を行う。</li> <li>・ 定期的にレポートを作成させ、考える力を養うと共に、習熟を確認する。</li> </ul>				
授業内容	主な講義内容			講義	実習
	1	(養豚) 豚の外貌の特徴、消化器と食性、習性と行動、豚の一生、品種とその特徴、改良目標と審査・登録、系統造成、雑種利用	2		
	2	(養豚) 飼育形態と豚舎構造、子豚の生理的特徴、分娩時の管理、哺乳、餌づけ、人工乳、離乳、肉豚の飼育管理、枝肉、格付け、肉質、母豚の生理と飼育管理	2		
	3	(養豚) 雄豚の飼育管理と交配、妊娠と分娩、衛生と病気	2		
	4	(採卵鶏) ニワトリの品種と改良、飼育形態と施設・設備	2		
	5	(採卵鶏) ニワトリの栄養と飼料、種卵の採取とふ化、ひなの整理と育すう、採卵鶏の整理と飼育技術、	2		
	6	(採卵鶏・肉用鶏) ニワトリの衛生と病気、肉用鶏の生理と飼育技術	2		
	7	自主学習	2		
	8	農場 HACCP と JGAP、動物検疫	2		
	9	ブランド化	2		
	10	(養豚・養鶏) ICT 等省力化技術	2		
	11	(山羊) 起源と品種、利用、ヤギの生理・習性、飼育環境と畜舎・施設	2		
	12	(綿羊) 起源と品種、利用、綿羊の生理・習性、飼育環境と畜舎・施設	2		
	13	中小家畜に係わる家畜衛生	2		
	14	期末試験	2		
	15	試験解説	2		
テキスト	「新版家畜飼育の基礎」(社団法人農山漁村文化協会)				
成績評価 の方法	定期試験 (60%)、課題 (30%) 講義聴講態度 (10%)				
備 考					

授業科目 (履修区分)	大家畜論 (選択科目)		担当教員	新城 恒二	
対象年次	研究科 2 年		期 別	令和 9 年度 後期	
単 位 数	2 単位	講義： 2 単位	時 間 数	3 0 時間	
		実習： 単位			
授業の目的 及び概要	大家畜に関する特性や肥育・飼養技術等、実践的かつ専門的な知識を習得する。				
授業の到達 目標	大家畜の動物分類学的位置と特性及び栄養生理学的特性について学ぶ。さらに、繁殖・泌乳及び肥育技術等飼養管理技術、衛生管理技術等について学び、大家畜（主に牛）による畜産経営について理解醸成を図る。				
授業の方法	講義				
授業内容				講義	実習
	1	大家畜の位置付け、家畜化とその要因		2	
	2	大家畜の品種と特徴		2	
	3	牛の登録及び審査方法		2	
	4	反芻家畜の胃の構造と働き		2	
	5	酪農経営と乳用牛の飼養管理方法		2	
	6	肥育牛経営と肉用牛の飼養管理方法（乳用種・肉用種）		2	
	7	和牛繁殖経営と繁殖和牛の飼養管理方法		2	
	8	飼料の種類と特徴		2	
	9	飼料の給与と消化吸收		2	
	10	繁殖機能と生理		2	
	11	妊娠の成立機能と分娩		2	
	12	放射能汚染が経営に及ぼす影響		2	
	13	口蹄疫等悪性伝染病が経営に及ぼす影響		2	
	14	牛海綿状脳症（BSE）の現状		2	
	15	全体評価（評価試験）		2	
テキスト	家畜人工授精講習会テキスト （一般社団 日本人工授精師協会 2015 年版） 家畜飼育の基礎 （一般社団法人 農山漁村文化協会 2014 年版）  主に教科書を使用し、授業内容によってプリント配布				
成績評価 の方法	レポート（概ね 20%）、評価試験（概ね 80%）により評価する。				
備 考					